

平沢復興大臣記者会見録

(令和2年11月7日(土) 15:23～15:27 於) 東日本大震災・原子力災害伝承館)

1. 発言要旨

皆さん、お疲れ様でございます。本日は双葉町で双葉駅周辺を視察しまして、大熊町で下野上地区及び大川原地区を視察いたしました。

大熊町では、特定復興再生拠点区域外にある吉田大熊町長さんの御自宅も拝見させていただきました。町長さんのお宅は、外から見るとしっかりしている家に見えましたけれども、中は荒れ放題でございまして、イノシシなんかが入ってきて、そして家の中をかき回しているようでございます。ちなみに、今日吉田町長さんのところに行きましたら、家の前の道路で、大型というか、かなり大柄のイノシシとぶつかりまして、本当にこういった昼間も出てくるわけですから、大変だなという感を強くしました。

また、今日はその後、「東日本大震災・原子力災害伝承館、双葉町産業交流センター、福島県復興祈念公園 合同開所式」に出席させていただきました。本日開所した施設や、復興拠点などでの新たなまちづくりの状況からは、未曾有の複合災害から復興しつつある様子を実感したところでございます。また、避難指示が解除されず、現在でもなおふるさとに帰ることができない方々に、大変な御苦勞をおかけしていることを改めて認識したところでございます。これからも現場主義のもと、被災者に寄り添いながら、復興の加速化のため全力を尽くしていく所存でございます。

今日は副大臣も一緒にこちらにお邪魔していますので、御質問があればどうぞ私、そして副大臣に何なりと言っていただけだと思います。

私からは以上です。

2. 質疑応答

(問) 大臣は今日でこちらにいらっしゃるのは2回目だと思うんですけども、先ほどのスピーチの中で、こちらをご覧になって息をのまれたというふうにお話をされていましたが、特にどの展示物に関してでしょうか。

(答) 息をのまれたというのは、私は災害全体の中で、津波で息をのんだということです。

(問) 原発事故に関してはどうですか。

(答) 原発事故も含めて、災害で、あのとき私は直後に随分災害の津波のところの跡を、それから原発の跡をいろいろと見させていた

だいて、あまりに、要するに災害のすさまじさに驚いて息をのんだと、こういう意味でございます。

(問) では、この展示物をご覧になってではない。

(答) 違います。

(問) この展示物に関しては、これでは物足りないという声もあるんですけども、大臣はご覧になって率直な感想はありますか。

(答) これは県のあれなんで、県のほうでこれから展示物のやり方、内容等についてはしっかり検討していかれることと思います。

(問) これで伝わるとお思いますか。

(答) それは県のほうで御判断されるだろうと思います。

(以 上)